

## 【追悼文】

昨年度佐世保高専の草創期からご指導いただきました倉掛幸隆先生（機械工学、在任期間S.37/4/1～S.63/3/31）、池田稔先生（工業化学、在任期間S.37/4/1～H.2/3/31）のお二方が90余年の生涯を閉じられました。

ここに追悼文を掲載し、両先生に感謝申し上げますと共に心よりご冥福をお祈りいたします。

## 倉掛 幸隆先生の思い出

小西 繁孝（2M）

昭和38年に福岡県遠賀郡の片田舎から入学し、佐世保の外国人の多さ、四ヶ町を行きかう人の多さ、映画館、ボーリング場等、様々なカルチャーショックを受けました。

学校では全ての教科、特に、倉掛先生の物理の講義はスピードが速くあつと言う間に高校課程の講義が終了し、2学期からは英文の教科書（内容は大学課程の物理）での講義で、内容の理解の前に語学の壁が立ちただけで落ち込んでいました。

その時、相談に行った先生から『原文で理解してくれるのが一番いいですが、難しい場合、日本語の参考書で勉強してはどうですか』とのアドバイスを受け早速参考書で勉強し、やっと講義についていけるようになりました。

そのようなことが有り、卒業研究では倉掛先生の指導で“非線形振動”に挑戦しました。

当時がアナログコンピュータの時代でそれを使い微分方程式の様々な解の求め方を教えて頂き、就職後も、油圧関係のリリーフバルブでは振幅（騒音に影響）とピーク圧（疲労強度；コスト）の最適解を追及する手法に活用しました。

今振り返ると、相反する矛盾を解決する製品開発の基本を教えて頂いたと感じています。

又、先生から『社会に出てから人付き合いのため麻雀ぐらい覚えてください』と自宅に招待して頂き先生と奥様から手ほどきを受け、卒業までにマスターし、会社での人間関係の構築に非常に役立ちました。

今でも、麻雀はボケ防止のため先生の教えを実践しています。

お世話になった倉掛先生のご冥福を心からお祈りしています。

## 池田 稔先生の思い出

北村 貢（5C）

昭和41年（1966年）4月、増設された工業化学科の第1期生として入学した第5回生です。一年生の学級担任は一般科目主任助教授で化学を教えておられた池田稔先生でした。太い眉とドングリ眼、角張ったお顔立ちから“ピテカン先生”と愛称されていました。

強烈な思い出があります。それは入学して1ヶ月経た頃でした。“ミノルちゃん”と甲高い声でした。一般棟の一階廊下からです。身体検査に集合した上級生の一団です。黄色い声援の先は一般棟と物理・化学実験棟を結ぶ連絡通路でした。白い実験着を纏った池田先生が颯爽と闊歩していたのです。対等な先生と学生、高専の自由を感じました。

高専一年生は勉学で大変でした。新棟増設の杭打ちハンマー音が響く教室、ドンドン進む授業、脚も手も届かぬ赤点ハードル、追試は陽が落ちる前に行われた。

池田先生の化学講義もそうでした、難しい教科書を飛び飛びに、しかも戻りあり、上下にスライドする黒板に先生はチョークを弾かせる。やたら多い横文字やカタカナで頭が飽和して快眠へ。日中眠らぬ賢者は黒板を筆写して、眠る患者の赤点救済に貢献してくれました。

座学の他に化学の実験があり、初めてガラス管を加熱加工して実験用具を作ったのを思い出します。

九年前佐世保で工業化学科第1期生の還暦同窓会があり、池田先生も御参加頂きました。先生は万年青年のご様子で快活でした。「80歳になって初めて足の衰えを覚えた。君達は未だ二十年ある。頑張れる。」と激励されました。

手元の工業化学科第1回卒業文集から池田先生が卒業生へ贈られた一文を拾います。「人間の価値判断は個々に異なるけれども、要は胸をはって世間を闊歩できる人間になりたいものだ。」

池田先生、どうもありがとうございました。

## 【支部会報告】

### ①長崎支部

田嶋 康幸 (23M)

長崎市内のサンプリエールにて2018/10/13に第5回長崎支部会が開催され、過去最高数となる60名の方々にご参加いただきました。今年は東田校長にもご参加いただき、会の冒頭に佐世保高専の現状と未来への熱い思いをお話いただきました。また、当日は朝から長崎支部同窓会懇親ゴルフも開催されました。初秋の晴天のもと参加者の皆様は楽しくプレーされたようです。



### ②関西支部

高島 裕正 (17C)

2018/ 5/26大阪梅田にて東田校長はじめ各支部長にもご参加いただき64名のご出席で開催いたしました。

### ③佐世保支部

中田 敦典 (10E)

2018/ 7/ 7セントラルホテル佐世保にて佐世保支部の集いを開催いたしました。

当日は12Mの山口浩一さん達のグループにより懇親会でバンド演奏していただく等楽しいひと時を過ごすことができました。

### ④福岡支部

福田 昭彦 (13M)

福岡支部は昨年から新体制となり2018/10/27に博多で支部総会を開催しました。参加者64名で大いに盛り上がりました。

## 【ロボコン関係】

### ロボコン全国大会2018の応援報告

東京支部長 加椎 玲二 (11M)

感動のロボコン観戦でした。

全国大会では佐世保高専は前日の抽選により運良く2回戦目から参戦していきま



その2回戦の初戦は東海北陸で優勝した強豪校である鈴鹿高専でした。

九州沖縄大会から1ヶ月ほどで更に成長と正確性を増した佐世保高専は強敵鈴鹿を12対5で快勝。

3回戦は東北大会で優勝し、この全国大会でも結果的に優勝を決めた一関高専でした。

ハラハラドキドキの2分間でした。一関の圧倒的な成功率に押され10対34で敗れたもののベストエイトの成績となりました。しかし、最も感動したのはその佐世保高専のフリップ技術力。

他の高専がペットボトルを直立放出でテーブルに正立させるところがほとんどなのに対して、あくまでフリップにこだわった手法でした。

つまり、ユーチューブ動画で話題になっているボトルを縦に1回転以上させて(フリップさせて)テーブルに正立させる技です。

今回の高専ロボコンが歴史上もっとも難易度が高いと前評判された理由がこのフリップさせてテーブルに載せる技でした。

しかももっとも難易度が高い中央テーブルの頂上は2.4m。

この遠くて小さなテーブル上に正確な放物線と1回転のフリップを決める他の高専には見られない正確無比な射出精度に会場から歓声が沸きました。

ツイッター上では「美しすぎる」「佐世保カッキー」「もう一度見たい」などの賞賛の嵐でした。

そして終演で、待ちに待った表彰式。私たちは「何か賞をもらえる」ものと確信に満ちて待ちました。そして並み居る強豪がひしめく中、「技術賞=佐世保高専」の発声。佐世保高専の応援席は「お〜!!!」「やったあ〜!」

のどよめきが沸きました。

まるで優勝でもしたかのような歓声で、皆近くの方と喜び合い、手を取ったものでした。

佐世保高専のロボコンの歴史に永遠に名をとどめるすばらしい快挙です。



(このフリップ技術を成功させた機構は高専の博物館行きです!!!)

しかも、ロボコン史上もっとも困難と言われたフリップさせてテーブルに正立させる高い技術力を審査員も認めた形です。

この技術賞は私たちは真の意味での最高の栄誉と受け止めています。

このアイデア対決高専ロボコンは「高専の甲子園」とも言われます。

そんな中、佐世保高専の後輩達のロボコンでの技術力は年々高まっています。

若き技術者の後輩もさることながら、校長先生や指導される教官の方々の日々のご努力・ご指導の賜です。

今後も益々成長し続ける佐世保高専と後輩達にエールを送りたいと思います。

今回国技館に駆け付けていただいた方は東京支部としては70数名となり、佐世保から駆け付けられた教職員、保護者など20数名で合計100名を超える規模でした。

これらの方々の熱き思いが選手諸君の励みになって、美しいフリップ正立実現=技術賞の結果になったことも一つの要素と思います。

皆様方の心のこもった応援に感謝いたします。

国技館だけでなく、TVやPC動画で応援をされた方にも本当に感謝申し上げます。

## 1. ロボコン大会応援お礼

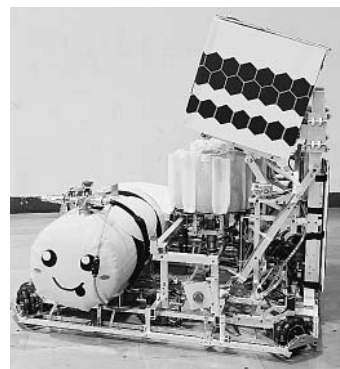
全国大会・技術賞受賞自動ロボット

電子制御工学科4年 内田 直浩 (機構)

音瀬 (オトナギ) 雅仁 (制御)

この度は全国大会出場に際しまして、100名超のご声援をいただき誠にありがとうございました。

ロボコン部は去年善戦虚しく地区大会ベスト4止まりという悔しい思いをしておりました。その悔しさを糧に一年間精進してまいりました。その結果、九州沖縄地区大会「デザイン賞」及び全国大会出場選出され、全国大会



【技術賞受賞のロボット：火種】

会ベスト8並びに26年振りの「技術賞」を受賞できました。このような結果が出せたのも、日頃から多大なご支援をいただいております同窓会の皆様、保護者の皆さま、本校関係者のおかげだと感謝の念で一杯です。

これからも、部活動をはじめ高専生活においてより一層、精進していきますので、今後ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 2. ロボコンプロジェクトへの寄付お礼

佐世保高専ロボコンプロジェクト

部長 電子制御工学科3年 磯本 航世

日頃からロボコンプロジェクトへのご支援に心から感謝申し上げます。

平成30年度高専ロボコン全国大会への出場に際しまして、多額のご寄付ありがとうございました。

皆様からのご寄付のおかげで、高性能3Dプリンタを購入することができました。

今回購入しました3Dプリンタは設計・製作の効率を一層上げてくれています。

現在、オフシーズンの活動中ですが、3Dプリンタにより、設計の幅も広がり、製作部品の種類も増え、より高い再現性の機構をつくることできるようになりました。

次の大会では今回の結果以上の成績が残せるよう頑張りますので、今後とも応援よろしく願いいたします。